(*Macaca fuscata fuscata*) in the Shiga Hights. Primates, 22: 330-348.
7) 大井晴男・大桑司紀之・和田一雄・西本豊弘（1981）礼文島香深井A遺跡出土オットセイの年令・死亡時期の査定について。北方文化研究14：199－240。

学　会　発　表

1) 野沢　謙，庄武孝義，川本　芳，田名部雄一：電気泳動でみたヒトとチンパンジーの遺伝的差異。第53回日本遺伝学会（1981）
2) 野沢　謙：ニホンザルの地域集団間の遺伝的分化。第26回プリマーテス研究会（1982）
3) 峰沢　満：スンクスの核型。第16回日本実験動物学会シンポジウム。新しい実験動物―スンクス（食虫目トガリネズミ科ジャコウネズミ）（1981）
4) 峰沢　満：マカカ属の細胞遺伝学的研究。1.姉妹染色分体交換。第26回プリマーテス研究会（1982）
5) 和田一雄・小見山章：志賀高原横湯川流域の植生とニホンザルの生息環境。第30回日本林学会中部支部大会（1981）

生活史研究部門

河合雅雄・杉山幸丸
大沢秀行・森　明雄[1)]

研　究　概　要

1) 西アフリカ熱帯多雨林の霊長類の社会生態学的研究

河合雅雄・森　明雄・丸橋珠樹[2)]

西アフリカ・カメルーンにおいてドリルおよびマンドリルヒヒの現地調査を1979年度より開始，現在も継続中である。これまでは主に糞分析法によって，その採食生態を明らかにし，熱帯多雨林の諸特徴とどのように関連しているかを両種で比較しながら研究してきた。一方ザイールにおいては，1979年度よりピグミーチンパンジー，ゴリラの行動学的研究を進めてきた。これらの研究は本年度よりカメルーンに集中し，チンパンジー，オナガザル類にも対象をひろげて進めている。

2) ニホンザルの個体群生態学的研究

杉山幸丸・大沢秀行

高崎山の餌付け個体群を対象に個体標識による継年追跡を続行中であり，詳細な人口学的パラメーターを算出し生命表を完成しつつある。一方，霊仙山では餌付け中と餌付け放棄後の個体群動態が細部に及んで比較検討され，各人口学的パラメーターに及ぼす餌付けの影響が社会的階層との関連において追求されている。

3) ハヌマン・ラングールの社会生態学的研究

杉　山　幸　丸

1981年12月より翌年2月にかけ，北および南インドにおいて野外調査を行なった。これは1961年より続けているもので，今回は個体群動態に重きをおいたポピュレーション・センサスであった。

4) ベルス・チンパンジーの行動生態学的研究

杉　山　幸　丸

1979―80年におこなった野外調査のまとめを行なった。この研究はギニアのボッソウにおいて2―3年毎に行なっているものであり，道具使用などの特異的行動の観察とともに，出生，消失，移出入等の個体群動態の長期的把握を目指している。次回の現地調査は1982年10月から83年3月までを計画している。

5) 日本と欧米の霊長類学成立における方法論の比較研究

アスキス，パメラ[3)]・杉山幸丸

1960年代までの霊長類学成立初期における方法論やターミノロジーの差を日欧間で比較検討し，その長短を文化的背景にまでさかのぼって検討している。

6) サバンナ生息哺乳類の個体群生態学的研究

大　沢　秀　行

1978，80年に東アフリカ・ケニア北部でおこなったシマウマ，パタスザル等大型・中型草原性哺乳類の社会生態・個体群生態の現地調査をまとめ，一部は公表し，さらに資料の分析を進めている。

総　説

1) 杉山幸丸（1981）：人間の本性を求めて。ライフサイエンス，8(6)，4－12。
2) 杉山幸丸（1982）：チンパンジーの言語。

1) 昭和56年10月1日をもって幸島野外観察施設より配置換
2) 研修員
3) 文部省給費研修員

言語，11(1)，50－57。

論　文

1) Sugiyama, Y. (1981): Observations on the population dynamics and behavior of wild Chimpanzees at Bossou, Guinea, 1979-80. Primates, 22, 435-444.
2) Sugiyama, Y. and H. Ohsawa (1982): Population dynamics of Japanese macaques at Ryozenyama. 3. Female desertion of the troop. Primates, *23*, 31-44.
3) Ohsawa, H. (1982): Transfer of group members in plain zebras (*Equus burchelli*) in relation to social organization. African Study Monographs, *2*, 53-71.
4) Mori, A. (1982): An ethological study on chimpanzees at the artficial feeding ground in the Mahale Mountains, Tanzania – with special reference to the booming situation. Primates, *23*, 45-65.

研究報告・その他

1) 杉山幸丸 (1981)：「子殺しの行動学―霊長類社会の維持機構をさぐる」―増井氏の批判（12巻1号）に答える。季刊人類学，12，256－262。
2) 杉山幸丸 (1981)：アフリカ森林地帯の食文化。葵，68，4－8。
3) 大沢秀行 (1982)：動物における親別れ・子別れ。教育と医学，30，274－280。
4) Maruhashi, T. and U. Mori (1982): A preliminary report on the diet and feeding behavior of the drill, *Mandrillus leucophaeus*. "Studies on living and fossil primats in Africa" (M. Kawai ed.) pp. 18-38, Primate Research Institute, Inuyama.
5) Hoshino, J. and M. Kawai (1982): Preliminary report on the ecology and sociology of *Mandrillus sphinx* in Cameroon. "Studies on living and fossil primates in Africa" (M. Kawai ed.). pp. 1-17, Primate Research Institute, Inuyama.

学　会　発　表

1) Sugiyama, Y. (1982): Recent advances in the field studies of Japanese monkeys. International Symposium on Primates, Jodhpur.
2) 杉山幸丸・大沢秀行：ニホンザルのデモグラフィーについて。第28回日本生態学会（1981）
3) 大沢秀行：プレインゼブラの社会―群れのメンバー交代。第18回日本アフリカ学会（1981）
4) 丸橋珠樹・森　梅代：カメルーンにおけるドリルの生態調査。第18回日本アフリカ学会（1981）
5) 丸橋珠樹・森　梅代：カメルーンに生息するドリル (*Mandrillus leucophaeus*) の採食生態について。第28回日本生態学会（1981）

生理研究部門

大島　清・目片文夫
林　基治・野崎真澄
大内慶子[1)]

研　究　概　要

1) 生殖リズムの中枢機序に関する研究

大　島　　清

今まで特にニホンザルについて月周期，年周期リズムにともなう種々の正常値を測定してきた。今後，特にニホンザル繁殖リズムの季節性に関する中枢機序を解明する目的で，電気生理学的，生化学的，微細構造学的，生理的方法によって研究を進める。

2) 胎児の生理学的内分泌学的研究

大島　清・大内慶子

羊水中に浮かぶ水棲動物としての胎児が外環境の刺激をどのようにとらえているか，また分娩発来に胎児が内分泌学的にどこまで関与しているかを明らかにする。

3) 初期発生に関する研究

大　島　　清

人工受精，又は体外受精において，より効率よく実験用サルを繁殖させるための基礎研究を生化学的，形態学的におこなう。

4) サルの循環器系を生理学的，薬理学的，組織学的にしらべることによるサルの行動，姿勢との関連を中心にした適応，進化についての研究。

目　片　文　夫

---

1) 教務職員